令和3年度　第1学期　終業式　校長講話

新座柳瀬高校の生徒の皆さん。おはようございます。校長の鴨志田新一です。
今日で、令和３年度の一学期が終わります。生徒の皆さん、一学期を振り返ってみてどうでしたか。
明日から、８月３１日まで、夏休みに入ります。あらかじめ計画を立て、有意義に過ごしてください。夏休みを迎えるにあたって、少し話をします。よく聞いてください。

新型コロナウイルス感染症拡大から２回目の夏休みとなります。日本でもワクチン接種が進んでいますが、首都圏を中心に感染者数は増えており、油断できない状況にあります。
皆さんには、夏休み中も感染症防止対策を徹底し、感染症にかからない、うつさないといったこれまでの生活を継続してください。また、登下校の際の飲食についても、やめてください。
そんな中ですが、今週から、２０２０東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。開催にあたっては、様々な世論や意見がありました。しかし、開催する以上は、無事に終わってほしいと願っています。
また、今年の夏も暑くなることが予想されます。熱中症等の対策も十分に行い、体調等に少しでも異変を感じたら決して無理はしないでください。

さて、今日は詩人で書家の　あいだみつを　さんの詩を紹介します。あいださんの詩や言葉は、簡潔ですが、人の心に響きます。皆さんもいくつかの言葉や詩に触れたり、聞いたりしたことがあるかもしれません。有名な言葉に「にんげんだもの」があります。
今日は「道」という詩を紹介します。

「歩くから道になる　歩かなければ草が生える」

短い詩ですが、皆さんは何を感じましたか。
私の個人の話で申し訳ありませんが、私は趣味でジョギングをしています。大会やレースにも定期的に参加してきています。ここのところは、コロナの影響で大会が中止となっていますが、これまでに４０回以上フルマラソンを走りました。
走ることのいいところ。それは、走ることは前にしか進みません。走り続けていれば、必ずゴールにたどり着きます。
マラソンのレース中は、そんなに速く走るわけではないのですが、後ろを振り向くことはありません。なぜなら、私は、だれかと競い合っているわけではなく、自分と競い合っているからです。

あいださんの詩に戻ります。

一人一人がどの道に進むかはわかりません。自分で決めなければなりません。マラソンと違って、道の先に何があるかわかりません。
でも、踏み出さなければ、道は草となり、歩むべき方向もわからなくなります。

今、世界や日本は混とんとしており、時代の転換期を迎えています。だからこそ、皆さんは顔を上げて、前を向いて歩き出してください。
まずは、歩き出すこと。行動すること。
行動することで、心も体もついてきます。感情も変わります。悩んだり、不安だったりすることも行動することが大切です。
是非、顔を上げて、前を向いて、歩き出しましょう。

最後に、集会の決まり言葉、「凡事徹底」についてのお話しをします。
２、３年次生は「またか」と思うかもしれません。１年次生は初めて聞くと思います。
「凡事徹底」　当たり前のことを当たり前にすることが大切です。
具体的には、「明るい挨拶」「大きな返事」「品のある服装」「心を込めた清掃」
そんなこと当たり前にしていると思うかもしれません。
しかし、挨拶一つにしても、本当に心を込めてあいさつをしていますか。言われたから、言葉を出しているだけではありませんか。
服装も、注意されてから直していませんか。

スポーツや勉強と同様、基本的なことをしっかりと身に付けていなければ、新しいことに立ち向かうことはできません。当たり前のことを当たり前にすることで、新たな一歩を踏み出せます。
「凡事徹底」今一度、お願いします。

９月１日に学校が再開したとき、皆が元気で再会できるように事故やけがのないよう自ら気を付けてください。そして、何かトラブルが発生した際は、自分で解決しようとせず、必ず保護者や学校などに相談してください。

私からは以上です。